

<72 時間サバイバルコーチ養成講座>

日 時：2019 年 6 月 22 日（土）～23 日（日）

訪問先：似島臨海少年自然の家（広島県似島）

参加者：庶務課課長補佐 前田豊

他 9 名の受講者

指導者：72 時間サバイバル教育協会代表 片山誠

72 時間サバイバル教育協会のプログラムは、被災時に限られた物資の中でいかに自分の命を守り（自助）工夫して生き抜くかを考え、仲間と共に助け合い、体験と情報を共有しながら（共助）、サバイバルマインド（自助）を養うことを目的としている。災害時の停電、断水、交通インフラ停止等の疑似環境の中で、衣食住の安全な確保などの野営体験を通じてレスキューまでの「72 時間を生き抜く力」を今後本学学生や地域住民へ楽しく教えることのできるスキルを習得するためコーチ養成講座を受講した。コーチ養成講座は協会が定める 8 つのプログラムを全て体験できる。コーチする上で注意すべきポイントを学んだ。

- ・【シェルター】ビニールシート 2 枚で屋外で休む（就寝する）ことを実践。ロープワークテスト有り。
- ・【フード】少ない食料を仲間で分け合う。限られた調理器具で食材を食べる実践。
- ・【ファイヤー】マッチの擦り方の学習と実践。小枝や薪を使用し安定した火をつくる実践、テスト。
- ・【ナイフ】ナイフの危険性を学習、薪割り体験。小枝からナイフを使い箸を制作するテスト。
- ・【チームビルド】避難所運営（仮想）をシュミレーション。グループワーク中心。
- ・【SOS】互いに遠くに離れ、相手の見えない場所から声や音で助けを呼ぶ実践。
- ・【ウォーター】泥水からろ過装置を使い、飲料水をつくりだす。ろ過装置の学習。
- ・【ファーストエイド】外傷の応急処理方法の学習と実践。熱中症や低体温症の予防や対応策の学習。

参加する前は小中学生向けのプログラムであることから大学生（大人）相手なると簡単すぎる内容と侮っていたが、実際にプログラムを体験すると、大人でも各項目考えさせられたり思うように進まないことが多い。都心で非常時を経験していない環境で育った学生であれば、プログラムを体験することで大幅に自助力を伸ばすことが可能である。現在 PJ3 の活動項目の一つとして開催に向けての調整をしている。